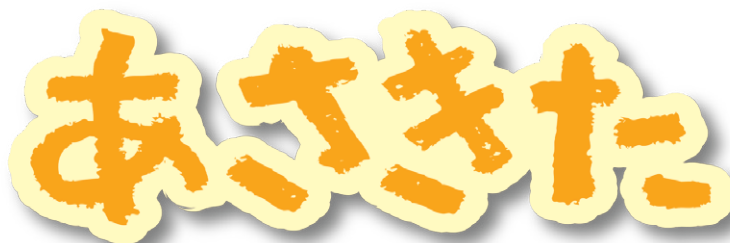




区報あさきた
12.1号

P7・P8編集・安佐北区役所区政調整課
〒731-0292 安佐北区可部四丁目13-13
☎819-3903 ☎815-3906



みんなが支え合う 自然と歴史の安佐北区



安佐北区の人口/135,545人(1,313人減)
安佐北区の世帯数/66,208世帯(84世帯増)
令和7年10月末現在(前年同月比)

広島市安佐北区役所

検索

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/asakitaku/>

あさきた 神楽 発表会 3/8日

9:00開場
9:30開演
園区民文化センター

できるだけ公共交通や無料シャトルバス(安佐北区役所発着。始発便は8:50予定)をご利用ください



今年で20回目を迎えるあさきた神楽発表会では、区内の八つの旧舞・新舞神楽団が、日々の練習の成果を披露します。
園あさきた神楽発表会実行委員会
(地域起こし推進課内☎819-3904、☎815-3906)

受け継がれる舞、広がる神楽の輪

日本古来の伝統芸能、神楽。神の前での鎮魂、五穀豊穡の祈り、災厄の払拭、豊作のお礼のための歌や舞がその発祥と言われています。今でも秋祭りでは、地域の幸せを祈る舞として神楽が奉納されています。

神楽は日本各地に伝承されていますが、その形はさまざまです。区内では、高陽地区の6団体が儀式的な性質の強い「十二神祇神楽」を、白木・可部・安佐地区の8団体が演劇性の高い「旧舞・新舞」と呼ばれる神楽を継承しています。

戦前の旧舞、戦後の新舞

旧舞、新舞は、どちらも芸北神楽と呼ばれるもので、島根県の石見地方が源流と言われています。新舞は、戦後、連合国軍総司令部(GHQ)により神楽が規制される中で創作されたもので、神道色を薄めた娯楽性の高い神楽です。これに対し、戦前の芸北神楽が旧舞と呼ばれるようになりました。

演劇性が高いことから人気を集め、定期公演や大会が開かれるほか、各種イベントでも上演されています。

チケット 全席指定

18歳以上:2,000(当日2,300)円

18歳未満または学生:500(当日800)円

※学生は高校生、大学生、専門学生など

※未就学児は膝上無料。ただし席が必要な場合は有料

前売券は12月20日(土)からセブンチケットで

座席を選ぶ場合は別途手数料220円が必要

セブンコード:113-227

URL:<https://7ticket.jp/s/113227>



演目・タイムスケジュール

開始時間	演目	出演団体
9:30	開会挨拶	
9:45	四方祓(しほうはらい)	飯室神楽団
10:05	伊吹山(いぶきやま)	亀山子供神楽
11:00	山姥(やまうば)	鈴張神楽団
11:55	塵倫(じんりん)	飯室神楽団
12:30	昼休憩	
13:15	隠神(いぬがみ)	綾西神楽團
14:15	牛御前(うしごぜん)	あさひが丘神楽団
15:10	茨木(いばらぎ)	亀山神楽団
16:10	滝夜叉姫(たきやしあひめ)	宮崎神楽団
17:05	大和葛城(やまとかつらぎ)	宮乃木神楽団



リポート -report-

心を揺さぶる舞で盛り上げます！

30年以上の歴史を誇るあさひが丘神楽団。約20人の団員で、今回の発表会以外にもさまざまな定期公演に参加し、地域に根ざした伝統を受け継いでいます。心地良いリズムと華やかな舞、そして迫力あふれる力強さで、見る人の心を揺さぶり、感動を呼び起こします。

伝統を継承する若者の声を紹介します



笛担当の
おかもとまり
岡本茉莉さん(14)

祖父の家の笛を吹いてみたことがきっかけで、神楽の魅力にはまりました。場面に合った音を出せるように、吹き方や息の強さを日々工夫しています。



最年少の
やまもとほるき
山本陽葵さん(13)

家族が団員で幼い時からずっと神楽が身近にあります。神楽の魅力は合戦の派手さ、力強さです。先輩団員に負けないよう精一杯練習を頑張ります。